

のりちゃんまっしゅ

信愛幼稚園園長通信 NO.13

2025年6月20日

発行：横田 法子

わたしは子育て歴24年の3人息子の母ですがダメダメのダメ親です。もしもタイムリープして幼児期の子育てをフラッシュアップできるなら、もっともっと安心して失敗させてあげたいと思います。失敗は大切だという考え方は当時もしてはいたけれど、思えば私の「こうなってほしい」に向かわせようと先回りしてアドヴァイスしていました。良かれと思ってしていたけれど、それはこどもにしてみたら「ダメ出し」だったのではないかと気付きます。知らず知らずのうちに評価を下し、上手くしなければと委縮させ、上手くできないのは嫌だなと、息子のやってみない気持ちを引っ込ませていたように思うのです。

アドヴァイス自体が悪いわけではないけれど、まずはやってみたことに自信を持ち、次なるチャレンジに意欲を持つことが大切。だからもしもタイムリープできるなら、すかさず「失敗は成功のもと！」とか言って、聞かれてもいないのに上手く行くにはああしたらよいとかこうしてちゃんと正したりアドヴァイスしたりしていたところをフラッシュアップしたいのです。アドヴァイスするのは先伸ばしにしてまずは見守り、こども自身が助言を必要とするのを待つ。経験した気持ちを聞いてあげて評価せずに気持ちを受けとめる。まず優先したいのは経験したこと自体を肯定してあげること。だって、私の目に「失敗」に映ることでも、幼いこどもにとっては何かしらの達成感を得た成功体験だったかもしれないでしょう。「できたよ」という嬉しさを母にも嬉しく思っていて欲しかったかもしれない。そうだとしたら可哀そうなことしてしまったなあと悔やむ訳ですが、これは幼児の成長段階について幼児保育の現場を重ねながら学んできた今だから気付けること。我が子がトラウマや厄介ごとに直面した時、間違っただけでしてしまっただけの時、人に迷惑をかけた時、親としては即時解決したい衝動にかられるのは当然で、当時は当方で精一杯でした。

新年度がはじまり2ヶ月がたちました。新入園児さんもみんなすっかり慣れて緊張がほぐれ、やわらかい笑顔や調子に乗っておちよける姿も見せてくれるようになりました。小さな身体や心をフル回転させて園での経験を吸収し、あんなこと、こんなことができるようになって私たちを驚かせてくれています。はらさん、ゆりさんもそれぞれの成長段階で遭遇する「カベ」に直面し、戸惑ったり困ったり、くやしい思いも抱えたりしながら悲喜こもごもです。時には諦めてしまったり、不器用にぶつかってしまったりすることもあります但し乗り越えてこそ得られるものがあるもので、「カベ」の向こう側にたどりつく毎にこどもたちの顔つきが変わっていくように思います。そんな姿がまぶしくて、エールをおくりながら私も頑張ろうと励まされます。いくつになっても完ぺきなわけではありません。衰えに向かうような年齢であってもまだまだ「のびしろ」もあるものです。おごらずにまだまだを自覚して、ダメダメだけれどあきらめない、未だ超えられていない向こう側を目指すチャレンジャーでありたいと思います。保育者としても教師としても、そして母としても。